

# 牛久：学校周辺に見る自然

第18号 みずべ公園

2015年12月17日発行

## < 秋から冬へ その2 >

みなさん、こんにちは。14号で「秋から冬へ」の移り変わりを感<sup>うっ</sup>じた生きものたち<sup>しょうかい</sup>を紹介しましたが、それから1ヶ月、同じ場所を歩くとだいぶ冬らしくなったもののまだ秋も残っていることに気がつきました。そのいくつかをみずべ公園と牛久自然観察の森に分けて紹介します。今回は、みずべ公園。まずは、ドングリのなる木として何度か紹介してきたコナラ。葉はいずれ茶色<sup>か</sup>くなって枯れ落ちま



まぶしいくらいの、コナラの紅葉<sup>こうよう</sup>と黄葉<sup>こうよう</sup>。毎年赤くなる木と、毎年黄色くなる木があるようです(12/8)。

すが、その前に緑色から赤や黄色に変わってきれいに紅葉<sup>こうよう</sup>する木があります。観察<sup>かんさつ</sup>していると、どうも毎年同じ木が葉を赤く、あるいは黄色に変えているようです。同じ種類の木なのに、ふしぎですね。



↑ 燃えるような、アカシデの紅葉<sup>こうよう</sup>(黄葉) (12/8)。

こちらは、「生きた化石<sup>かせき</sup>」としても有名な針葉樹<sup>しんようじゆ</sup>、メタセコイア。鳥の羽毛<sup>うもう</sup>のようにも見える小枝ごと、枯れ葉<sup>こえだ</sup>が落ちます。針葉樹<sup>しんようじゆ</sup>というとスギやクロマツなど、一年中緑の葉をつけている常緑樹<sup>じょうりよくじゆ</sup>というイメージがありますが、中にはこのメタセコイアやカラマツなどのようにきれいに紅葉<sup>こうよう</sup>したあと葉を落とす、落葉樹<sup>らくようじゆ</sup>もあるのです。

針葉樹<sup>しんようじゆ</sup>にも紅葉<sup>こうよう</sup>、落葉<sup>らくよう</sup>するものがある。

生きた化石ともいわれるメタセコイア (12/8)。 →

次に、アカシデ。風に飛ばされてクルクル回りながら落ちるタネを作るといってお話を、何度かしてきた木です。他の葉<sup>かぜ</sup>にかくれて陰になる葉は黄色になりますが、日にあたる葉は朱色<sup>しゆいろ</sup>～赤に美しく変わります。



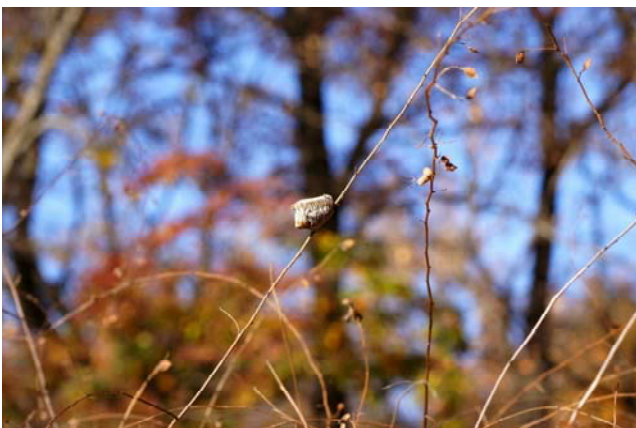




おうかつしよく ほかげ  
黄褐色のコナラの葉陰に、何やら緑色のものが  
…（上：探してみよう）。

近づいて見ると、ハラビロカマキリでした（左）。

きれいな紅葉をながめながら歩いていると、  
おうかつしよく ほかげ  
黄褐色のコナラの葉の陰に、うす緑色した  
何かが見えました。近づいてよく見ると、  
ハラビロカマキリでした。1週間ほど前  
にも、同じ木にいました。もう12月も半  
ばに入るとい時期に、動きはたいへん鈍い  
ですが、まだ生きていました。



なぜか、横向きに産みつけられていた、ハラビロカマキリの卵のう（右はその拡大）。上のカマキリが産んだのか？

近くのヤマハギに卵のうがありました。このカマキリのものなのでしょうか？なぜか、横向きに産みつけられていました。ふつうに縦向きに産んだあと、風などで茎が倒れるなどしてこんなふうになってしまったのかとも思いましたが、どうもそうではないようで、何ともふしぎでした。





ハンノキの幹で日向ぼっこ？していたアキアカネ(左)と、小枝からぶら下がったウスタビガのまゆ(右：中はから)。

まだ頑張っているといえ、赤とんぼも何頭も見かけました。写真に撮れたのは、どれもアキアカネでした。

枝にぶら下がっていた緑色のかごは、ウスタビガのまゆ。ただし中はからっぽで、ガはすでに羽化しています。まゆの一番下に穴が開いていますね？ここから羽化したと思われがちですが、こんな小さな穴からは出られませんね。じつは上に羽化して出たときの穴があいていて、そこから入った雨水をこの下の穴から抜くのだといわれています。



最後に、池に目を向けて、冬鳥のカモを2種。左はおなじみのコガモ。頭を体にうずめているのは、眠っているのだそうです。こうして枯れ草の中で動かずにいると、簡単には見つからないのでしょうか。この写真の中に、何羽いるかな？

下はオカヨシガモ。くちばしが黒くやや灰色がかかったのがオスで、くちばしが黄色で茶色っぽいのがメスです。 【理科支援員：宮内】



枯れ草の中で頭をうずめて眠るコガモ(上)とオカヨシガモの群(下)。どちらも冬鳥で逆立ちし水面下のえさを食べる。